

# 歯科治療成功へのステップ 機能性、審美性、長期安定性を求めて

10年後を見据えた、若手歯科医師を育て上げたい

年をとっても、近隣新規参入歯科医に負けないために

患者さんの、患者さんによる、患者さんのための歯科医療を目指して

1歯の基本武装こそ古マウスの最大の武器

患者さんが自然に集まる歯科医院を目指して



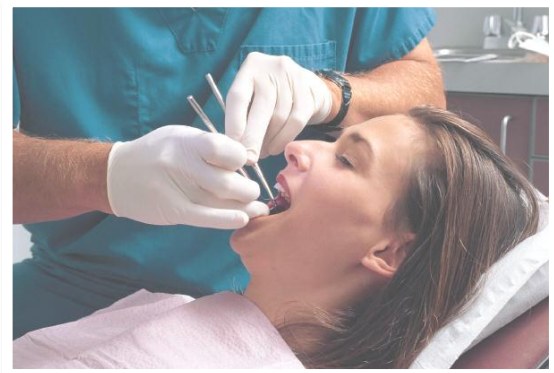
臨床を振り返ると再治療の繰り返りで、そのたびに落ち込んでしまいがちです。予知性の高い治療とのギャップの大きさのために、診療内容の向上に興味が向かなくなる時期もあります。しかし、逆にそれを糧とし、自身の再治療症例や予後が不安な処置歯の原因を追及していくことで、新たな前進を求めていくようになります。そして、少しずつ結果が残せるようになると、さらに向上心が湧き、それが日常臨床の活力ともなります。

つまり、治療の目標は、「1歯の基本武装こそフルマウスの最大の武器」であるということです。したがって、卒業直後の20歳代の頃は、ただひたすらに山道を登っていた時で、これは歯科医療の基本技術がむしゃらに習得すべきです。

そこでの目標は、

- ①根の治療をしっかりと行う
- ②歯肉をピカピカにする
- ③冠をしっかりと合わせる
- ④患者さんと長いお付き合いできるように努める

といったことであり、ひたすら基本技術の習得に努めるべきです。



この当たり前とも思える項目は非常に難しいことですが、まず1歯単で必死に取り組むべきです。それから講習会に参加して新たな治療法を仕入れ、技術はさておき、とりあえず模倣してみるという現状から始めていかなければなりません。つぎに、自分自身のレベルアップのためには、原因の追求することです。これは、北九州歯学研究会の故山内先生に教えていただいた「問題の歯が予後不安と考えられるような状態になった原因の把握がまずされなくてはならない。そのうえで、病変に対する的確な処置、つまり病態の改善へのアプローチを行うことが筋道であろう」に教えられてのことです。

我々は、歯科医療の総合力とは分析力でもあると考えています。つまり、1歯1歯の基本武装ができなければ「総合力」は生まれないと考えているからです。

そこで今回、我々の症例を提示しながら、その診断と治療の過程に加え、患者とのやりとりと、そのやりとりにおける我々の考えをできるだけ具体的に述べ、実習することによって、その実際をご理解いただくことにしたいと思います。若い歯科医の方々に、少しでも参考になれば幸いです。

## 或は



重度の歯周疾患罹患歯、大きな根尖病変を有する歯、骨縁下深くに及ぶ齶蝕歯など、抜歯か保存かの判断に苦慮する歯に対しては、近年、以前に比べて早期に抜歯のうえインプラントが適応されることが多くなったように思われます。確かに、保存の難しい歯を無理に残した結果、術者が経過対応に苦慮するばかりか患者も大変な思いをするといった症例は少なくなく、一方でインプラントの予知性が10~20年前とは比べものにならないほど高くなっている現状では、インプラントの適応を早期に判断することが必ずしも悪いこととは言えないかもしれません。

しかしながら、初診時に保存不可能と思われた歯が、初期治療あるいは歯周外科といった治療を経た再評価の段階で保存可能となる例も、臨床経過を丁寧に追いかけている歯科医師であれば経験しているところであり、保存か抜歯かの判断は一定の治療介入とその再評価の結果下しても遅くないという考え方も成り立ちます。特に若い歯科医師にとっては、たとえ教科書的には抜歯と判断されるような歯であっても、いったんは残す努力をしてみないことには、歯の保存の限界を真の意味で理解することはできないのではないかと考えます。

さらには、早期に抜歯の判断を下して患者に説明をしても、「できれば抜かないでほしい」と願うのが人情であり、たとえ抜歯に同意したとしても、心の中では「抜かれた」と思っている人が意外と多いものであります。そこで筆者は、抜歯の可能性のある歯は説明のなかで事前に予告しておき、そのときの治療の選択枝としてインプラントがあることも説明するようにしています。そのうえで、手を尽くしても期待した効果が得られない場合には「やはり抜歯してインプラントにしましょう」と話せば納得してもらえることが多く、それが患者との長期にわたる信頼関係構築の始まりになる場合も少なくありません。

そこで今回、保存か抜歯かの判断に苦慮する症例への対応のあり方について、我々の基本的な考え方を述べたうえで、症例を提示しながら、その診断と治療の過程に加え、患者とのやりとりと、そのやりとりにおける我々の考えをできるだけ具体的に述べ、実習することによって、その実際をご理解いただくことにしたいと思います。若い歯科医の方々に、少しでも参考になれば幸いです。



# 歯科治療成功へのステップアップコース

～患者さんの、患者さんによる、患者さんのための歯科医療を目指して～

## 概要

歯科治療成功へのステップ  
機能性、審美性、長期安定性を求めて  
コンセプト&テクニック習得  
臨床的な実習から学ぶ

## 対象

卒後・開業 10 年未満の歯科医師&その他

## 会場

福岡ヨシダ&さかきデンタルオフィス(予定)

## 受講料

892,500 円(材料費 50,000 円+消費税込)  
<分割可・申込金 100,000 円>

## 定員

25 名  
(定員になり次第締め切ります)

## インストラクター



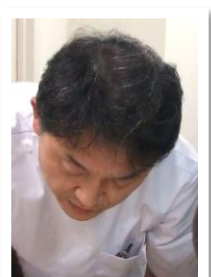
上田秀朗

医療法人うえだ歯科医院開業



榊恭範

さかきデンタルクリニック開業



大村祐進

おおむら歯科医院開業



白石和仁

白石歯科医院開業

## アシスタントインストラクター

甲斐康晴、樋口琢善、中島稔博、田中憲一、柴田麻衣

## 2012年 日程

	開催予定日	研修内容
第 1 回	2 月 4 日(土)・2 月 5 日(日)	明日からの歯科医師人生が変わる歯科臨床のツボ
第 2 回	3 月 3 日(土)・3 月 4 日(日)	安全で手際の良い歯内療法のポイント
第 3 回	4 月 7 日(土)・4 月 8 日(日)	矯正的提出の有効活用法を探る
第 4 回	5 月 12 日(土)・5 月 13 日(日)	より効果的な歯周外科処置を考える
第 5 回	6 月 2 日(土)・6 月 3 日(日)	インプラントは歯科界の救世主となりうるのか
第 6 回	7 月 7 日(土)・7 月 8 日(日)	歯周・補綴治療におけるプロビジョナル・レストレーションの位置づけ
第 7 回	8 月 4 日(土)・8 月 5 日(日)	より確実な印象採得をおこなうためには
第 8 回	9 月 1 日(土)・9 月 2 日(日)	機能性、審美性、長期安定性を考慮した補綴設計
第 9 回	10 月 6 日(土)・10 月 7 日(日)	長期症例に学ぶーその治療法ははたして適正であったか
第 10 回	11 月 3 日(土)・11 月 4 日(日)	あと 30 年臨床に立つ君たちに

※カリキュラム強化により、内容が変更する場合があります。

※お申し込みの先生へは、更に詳細な資料を送付いたします。

KIDS 2012

歯科治療成功への

ステップアップコース

KIDS 事務局 担当: [品川富美]

電子メール:

[ashley.judd1021@tune.ocn.ne.jp]

FAX: 092-711-5511[さかきデンタルオフィス]

## 特別ご優待 FAX お申込書

FAX を送るのが一番早いです。24 時間受付: **092-711-5511**

① お名前・おふりがなをご記入ください

医院名: \_\_\_\_\_

お名前: \_\_\_\_\_ 様

おふりがな: \_\_\_\_\_ 様

ご住所: 〒 \_\_\_\_\_

お電話番号: \_\_\_\_\_

FAX 番号: \_\_\_\_\_

メールアドレス: \_\_\_\_\_

お支払い方法: 一括振込 分割振込

② FAX を送信してください

FAX 番号: 092-711-5511 (24 時間受付)